

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-3 1

学校名・団体名	新潟市立新潟小学校
HPアドレス	http://www.niigata.city-niigata.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	持続可能な地域社会の担い手の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>環境・社会問題の多様化，複雑化が進む中，未来の社会の担い手となり，様々な問題の解決にあたっていくのは，間違いなく今学校で学んでいる子どもたちである。こうした中，学校は未来を生きる子どもに，社会の担い手としての生き方をしっかりと教えることが必要であり，どのような困難に直面しても生き抜く力を身に付けさせなければならない。そのためには，学校がこれまで以上に地域に開かれ，地域とともに歩むことが必要である。平成28年1月には，文科省から「次世代の学校・地域」創生が提言された。</p> <p>そこで，地域の力を生かし，地域と一体となって学習活動を展開することで，地域を愛し，持続可能な地域社会の担い手となる児童を育てたいと考えた。</p>	

1 系統性ある学びの組織

地域社会と一体となって学校教育を展開するためには、学校・地域の双方にとって価値ある活動を組織する必要がある。また、前学年の学びを生かせるようにするとともに、単発に終わらせることなく、持続可能な地域に根ざした活動を、全学年を通じて展開(表1)した。

表1 各学年の単元(単元目標や主な活動内容)

学年(教科等)	単元名	単元目標	主な活動内容
1年生 (生活科) 91名	あそびにいこうよ	学校や周りの公とも施設を探検したり利用したりすることを通して、 身のまわりの様子やその変化に気付く ことができる。	・学校探検や身近な公共施設に出掛ける。 ・気付いたことを記録する。 ・発表会を行う。
2年生 (生活科) 99名	たんけん はっけん 大ぼうけん	地域探検などを通して、地域と自分たちの生活のかかわりに気づき、 地域に親しみや愛着をもつ ことができる。	・本町商店街に出掛ける。 ・まちの様子を調べたり、まちの人にインタビューしたりする。 ・発表会を行う。
3年生 (総合) 105名	1日店員体験活動	地域の店舗での店員体験を通して、 仕事について理解したり、そこで働く人々や地域への親しみや愛着を深めたりする ことができる。	・本町・古町商店街の「ひと、もの・こと」を調べる。 ・協力店で店員体験を実施する。 ・報告会を行う。
4年生 (総合) 102名	古町スイーツ	地域の特色を調べ、スイーツで表現することを通して、 地域活性化に参画しようとする態度を養う ことができる。	・地域の特色を調べる ・商店街の人々と協働して、地域の特色をスイーツで表現する。 ・販売会を実施する。
5年生 (総合) 104名	古町×胎内米粉ラボクッキング	農業体験や食料生産について考えることを通して、 自他の地域の特色を生かして地域活性化に参画しようとする態度を養う ことができる。	・農業体験活動を行う。 ・自他の地域の特色を生かしたランチメニューを考える。 ・発表会を行う。
6年生 (総合) 92名	心躍れば皆同じ	総踊りや様々な祭りを通して、地域の伝統文化を理解し、人々の思いに気づき、 地域文化を継承・発展させようとする態度を養う ことができる。	・祭りや総踊りのルーツを探る ・地域コミ協等と協働し、タンポポ盆踊り大会の運営に参画する。 ・他地域にも祭りや踊りを広める。

持続可能な地域社会の担い手の育成

【活動の実際】※3年生および6年生の取組を抜粋

○3年生総合：「1日店員体験活動」

- ・9月…自己PRや体験活動で頑張りたいことを「履歴書」に記入。自己の課題を設定。
- ・10月…「1日店員体験活動」に向けた「半日修行」の実施。
- ・11月初旬…「半日修行」を基に、改めて「1日店員体験活動」の課題を設定。
- ・11月下旬…お店の特徴が分かる自作ポスターやチラシを作成。「1日店員体験活動」の実施。
- ・11月下旬…お世話になったお店にお礼状渡し。お店の方から子どもたちへ「修了証」の授与。

○6年生総合：「心躍れば皆同じ」

- ・5月中旬…「にいがた総おどり祭」を立ち上げた方から、総おどりにかける思いや願いについての講話。
- ・5~7月…にいがた総おどり祭実行委員会の方を招き、踊りの実技講習の実施。
- ・7月下旬…夏に開催される「タンポポ盆踊り大会」(地域学校協働事業)への参加。
- ・9月中旬…「にいがた総おどり祭」に参加(有志)。地域活性化に貢献。



2 他地域の学校との交流活動の充実

子どもたちを、「持続可能な地域社会の担い手」として育成するには、今ある環境から一步前に進み、より多くの「ひと、もの・こと」にふれ、地域社会の課題をアクティブに追究し、協働して問題解決していく過程を経験させる必要がある。その際、同じように地域活性化に取り組んでいる学校間の交流活動(表2)を充実させることにより、地域活性化への参画意識や活動への意欲をより高めていけるようにした。さらに、交流は単発で終わらせることなく、複数回交流を行えるように計画し、互いの学びがより深まるようにしていった。

表2 各学年の交流活動

対象学年	交流対象校	実施時期	交流内容
4年生	関川村立関川小学校 4年生 45名	①平成28年 6月 2日(木) ②平成28年11月11日(金)	①「祭り」をテーマに互いの取組を紹介し合う。 ②「古町スイーツ」発表会に合わせて、互いの取組をアピールする。
5年生	胎内市立中条小学校 5年生 75名	①平成28年 7月20日(水) ②平成29年 1月27日(金)	①「食・産業」をテーマに互いの取組を紹介し合う。 ②胎内特産の米粉と古町の食をコラボさせたレシピの発表会を行う。

【活動の実際】

○4年生 「古町スイーツ」

(関川村立関川小学校4年生との交流)

- ・5月下旬…地域の祭りを仕切っている方から、祭りや地域にかける思いや願いについての講話。
- ・6月下旬…夏の自然教室で関川小学校まで出向いて、1回目の交流活動の実施。3年生までの互いの学びや地域の祭りについて交流。
- ・7～9月…交流会後に、「古町スイーツ」単元開始。「祭り」をテーマに原案作成。
- ・9月…原画をもとに地域の菓子職人と企画会議を開催。
- ・11月初旬…試食会を経て改善案を菓子職人に提案。出陣式販売会に向けたPR方法の検討。
- ・11月中旬…まちに飛び出して、「古町スイーツ出陣式」の実施。2回目の交流活動として関川小学校4年生の子どもたちが、ミニ大蛇とともに来場。これまでの互いの学びを披露し合うとともに、出陣式では関川の「大したもん蛇祭り」をPR。
- ・次の日は、各店舗に出向き、自分たちで考えたPR方法で、広くPR活動・販売応援を実施。



○5年生 「米粉ラボクッキング」(胎内市立中条小学校5年生との交流)

- ・5～10月…学校田で稲作体験活動の実施。
- ・7月下旬…夏の自然教室で中条小学校まで出向いて、1回目の交流の実施。交流会では、「古町スイーツ」など地域とかかわった学びを交流。
- ・9月～…交流会後に米粉のよさを保護者や地域の方に伝えようと、「米粉ラボ」単元を開始。
- ・11月初旬…米粉料理のスペシャリストを招き、講話および調理実習を実施。米粉レシピの検討。
- ・12月中旬…まちに飛び出して、米粉の認知度や普及率についてアンケート調査。PR方法の検討。
- ・1月下旬…まちに飛び出して、保護者や地域の方々に広く米粉のPR活動を実施。2回目の交流活動として中条小学校5年生の子どもたちが来場。これまでの互いの学びを披露し合うとともに、米粉のよさを保護者、地域の方々に広くアピール。



(2) 成果と今後の展望

3年生「1日店員体験活動」後の子どもの感想

「お客さんがうれしそうに商品を買うのを見て、やっぱり笑顔でかかると喜んでくれるんだと思いました。」

4年生「古町スイーツ」後の子どもの感想

「ぼくたちの『新潟祭り』スイーツも、関川の『大したもん蛇祭り』もアピールでき、お互いの地域にとってよかったと思います。」

5年生「米粉ラボクッキング」後の感想

「中条小と一緒に、ダブルで地域に米粉のよさを発信できて良かったです。古町にも米粉料理の店が増えるといいです。」

6年生「心躍れば皆同じ」後の感想

「私たちの踊りをみんな笑顔で見えていました。古町に元気を届けられたと感じました。これからも地域が元気になるよう、いろいろなことに取り組んでいきたいです。」

子どもたちの感想からは、地域活性化の一助になった喜びと新たな活動に対する決意が読み取れる。また、他地域の子供たちとの交流を通して、改めて自分たちの地域を見つめ直す姿が見られた。12月に行った新潟市生活・学習意識調査においても、「地域のことにふれたり調べたりする学習は好きか」の問いに対し、90.2%の児童が肯定的評価をした。(新潟市平均82.7%)

今後は、「地域の学校」から「地域が学校」へと発想の転換を図り、昨年9月にオープンした地域の空き店舗を活用した「たんぼほふれあい広場」を核に、系統性を重視した「まちに飛び出して行う学び」を展開し、さらに子どもたちを「持続可能な地域社会の担い手」として育成していきたい。